

資産運用レポート：長期投資のリスク管理

1 はじめに

私もその一人ですが、個人投資家の中には、長期投資を行っている人が少なくありません。

プロの世界では、このやり方を「ロングロンリー」を呼んでいます。運用者向けの教科書として書かれた『「株式ディーラー」プロの実践教本』では、ロングロンリーについて、次のようにまとめています。

売りは組み合わせず、あくまで買いのみで運用されるため、相場の上昇局面では大きなリターンが期待できる反面、相場が下落・調整局面に入ると、相応のドロウダウンも発生します。

相場調整が短期間で済めばいいのですが、下落トレンドが長引く局面では、負け続けることも十分に考えられます。「優良銘柄に投資しているから大丈夫」という過信は、大きな失敗につながります。

大切なのは、自分自身のリスク許容度を理解したうえで、このアプローチを選択しているのかどうか、またそのリスク許容度の範囲内でドロウダウンをコントロールできるのかどうかです。

アベノミクス相場の始まった2013年以降は、強気相場が続きました、相場の調整局面も長くて半年程度と、比較的短期間で収まっています。しかるに多少の下げなど気にせず、ロングロンリーで突き進んだ投資家は、笑いが止まらないほどの果実を手に入れられたはずですが、

しかし本物の弱気相場が訪れると、2～3年は厳しい下げが続きます。そうなれば、ITバブル崩壊やリーマンショックといった修羅場を知らない新参の投資家は、金銭的にも精神的にも、かつて経験したことのない大きなダメージを受けてしまい、次々と退場に追い込まれるに違いありません。私自身も株式投資セミナー講師の仕事をはじめてからは、そういった悲劇を嫌というほど見てきました。

投資家として一番大事なことは、たとえ株式市場がどのような状況に陥ろうとも、とにかく生き残ることです。今回の資産運用レポートでは、『「株式ディーラー」プロの実践教本』のアドバイスを参考として、長期投資のリスク管理について取り上げます。項目としては次の3つです。

- エントリー
- エグジット
- ポジション・コントロール